



広重版画より 三島 朝霧

第2353回例会

2023.5.25晴

於:みしまプラザホテル

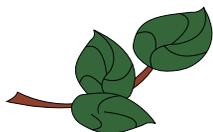
司会

杉崎亮慈君

会長挨拶

会長 花房孝光君

今月13日土曜日の「50周年記念行事」には皆様ご協力いただきまして大変ありがとうございました。委員会の皆様ご苦勞様でした。無事第一弾が終わり、今週28日日曜日はいよいよ「50周年記念式典」となります。今日は急遽リハーサルのための例会とさせていただきます。委員会の指示に従って確認をしていきたいと思っております。どうぞよろしくお願ひ致します。



スマイルボックス

◆内田君、いよいよついに、国際指名手配が掛かりました。タイ王国からの召喚で、大勢のギャルを待たせています。次年度バンコク・スリウォン・ロータリークラブに移籍予定です。6月はまだ日本にいます。国内事業は今まで通り、若い衆に任せてあります。今後は三島西RCにはメイクアップでお邪魔します。小塚君を人質としておいてきますので是非仲良くしてあげてください。

出席報告

	出席総数	出席率	メイクアップ	修出席正率
前々回	46/48	95.83%	47/48	97.92%
今回	39/50	78.00%	会員総数	54名

欠席者 赤池君、秋元君、秋山君、岩崎君、小川君、窪田君、諏訪部(照)君、平出君、藤江君、前田(博)君、横溝君

幹事報告

幹事 古屋英将君

- ①本日は新設例会です。多くの皆様に集まっていただき、ありがとうございます。
- ②2024年シンガポール国際大会 早期登録のご案内です。5月31日までは安く登録ができますので、ご案内いたします。
- ③本日お配りした芸術的なネクタイですが、3501地区ガバナーである苗栗RCのデンティストさんより頂いたものです。裏のタグに詳細が記載しておりますので確認していただければと思います。せっかくだいたネクタイですので、5月28日の50周年記念式典の際にみんなで着用しようと思っておりますので、よろしくお願ひ致します。
- ④6月の予定です。8日は夜間例会です。22日はさよなら例会です。富嶽はなぶさにて開催いたします。よろしくお願ひ致します。

ROTARY NEWS

ポリオ根絶活動はマラリアとの闘いにいかに役立つか

ポリオワクチンの接種活動を行うパキスタンのヘルスワーカー。マラリアが広がる仕組みを教えるための寸劇を披露するザンビアのボランティア。これらの取り組みは、一見まったく異なるように見えますが、深いつながりがあるのです。

ポリオ根絶の闘いでは、世界的なパートナーシップによって何百万人もの協力者を動員し、十分なサービスを受けていない人びとへの支援を行い、かつてないほどの量の保健情報を収集しました。ロータリーが中核的パートナーである世界ポリオ根絶推進活動(GPEI)は、マラリアとの闘いにおいても重要な役割を担っています。

UNICEF(国連児童基金)の推定によると、ほぼ1分間に一人のペースで5歳未満の子どもがマラリアで死亡しています。「子どもたちは、免疫力がつかないため最も影響を受けやすい」と話すのは、「マラリアのないザンビアのためのパートナー」(200万ドルを提供するロータリーの大規模プログラム補助金の最初の受領プログラム)の委員長、ビル・フェルトさんです。しかし、マラリアは予防可能な疾病で、根絶は可能だと信じる人は大勢います。GPEIの成果に触発され、そのツールを備えた保健専門家とロータリー会員が、ポリオ根絶活動の教訓をマラリアに適用しています。

ザンビアのロータリーアクターは、マラリア予防のために殺虫剤で処理された蚊帳の重要性を伝えるため、蚊に扮して寸劇を披露しています。これは識字率の低い地域の住民に働きかけるための効果的な方法で、「疾病を食い止めるには誤った情報を払拭する必要がある」といふGPEIの教訓に基づいたものです。

「エチオピアでポリオの予防接種活動を始めたとき、このワクチンはイスラム教徒の子どもたちを不妊化するという噂が広まりました」と、Malaria Partners Internationalの事務局長であるジェニー・アンドリュースさんは話します。「しかし、ロータリーは宗教指導者、伝統療法の施術者、部族リーダー、医師と協力してラジオやテレビで情報を発信し、人びとの恐怖心を払拭できました。ポリオから学んだことは、問題が起こるのを待つのではなく、先手を打つということです」

マラリアとの闘いでは多くの誤解と直面します。農村部の家屋で殺虫剤を散布し、それによって蚊が飛び回ると、蚊を呼び寄せていると思われることがあります。蚊帳を配るとき、それが無料であることを知らない人たちがいます。また、感染症を治療せずに放置すると、ほかの人が危険にさらされるといふことを多くの人が認識していません。

Malaria Partners Internationalの創立理事会メンバーであるジム・ムーアさんは次のように話します。「マラリアにかかっても、医療施設から遠く離れた場所に住んでいる人は、『まあ、前にもかかったことがあるし、我慢する』と言うことがあります。私たちは、体調が悪かったらマラリア検査を受けるようにする、という啓蒙活動も行っています。マラリア患者が蚊に刺されると、寄生虫が蚊に移り、さらに隣人や家族にも広がる可能性があるからです」

「私たちの重要な仕事は、宗教指導者、ビジネスリーダー、部族リーダーなど、地域の指導者に情報を提供し、マラリアがどのように感染するかを理解してもらうことです」と彼は付け加えます。

ロータリーのポリオ根絶活動のおかげで、会員は既にこれらの指導者/リーダーたちとの強固な関係を築いています。ロータリー第5030

地区のバスターであるエズラ・テシヨさんは、1997年以来、エチオピア、ウガンダ、ケニアでのポリオ予防接種活動でロータリー代表団を率いてきました。効果的にマラリア対策を講じるには、主要な政府関係者を巻き込むことが重要だとテシヨさんは話します。幸いなことに、彼は誰に相談すればいいかを既に知っています。「東アフリカでの私の仕事の成功は、適切な人脈を築くことにかかっている」とテシヨさん。「この地域の国々では、保健大臣、首相、大統領府とのつながりを築くことができ、これによってヘルスワーカーを支援することが容易になります」

ドレイク・ジーマンさんは、80年代後半、CDC(米国疾病対策センター)の専門家がロータリーのポリオ活動について語るのをバーで聞いたことを振り返ります。彼らは、麻疹やマラリアといった疾病にある方法で対応しようと考え、その方法を「ロータリーモデル」と呼んでいました。「ロータリーモデルとは、まず大規模な社会動員であること、次にロジスティクス、そしてサーベイランスを行うこと」とであると、マラリアと闘うロータリー行動グループ(Rotarians Against Malaria-Global Rotary Action Group)の共同設立者兼会長であるジーマンさんは話します。「マラリア感染が起きていなくても、根絶が証明されるまでは本当にマラリアがなくなったのかは分かりません」

この証明を得ることは、今後数年間、ザンビア農村部で36,000人のコミュニティヘルスワーカーが行う主な仕事の一つです。「マラリアのないザンビアのためのパートナー」は、そのうちの2,500人を訓練し、装備を整えています。マラリアの検査や治療(それ自体が大きな仕事)に加え、ヘルスワーカーたちは発見したことを記録し、多くのアフリカ諸国で利用されている大規模な公衆衛生データベースにデータを提出しています。

「マラリアでは、サーベイランスを継続する必要があります」とムーアさん。「新たな症例が起きたときに治療できること、そして感染を特定する情報システムが必要です。これはポリオの報告システムを基に構築されたものですが、さらに拡張されています」

GPEIは、世界各地で発生したポリオを迅速に発見し、対応するための高性能なモニタリングシステムで世界をリードしています。このモニタリングは、徹底したデータ収集が必ずしも一般的でない国でも行われており、このシステムがマラリア報告の基礎となっています。データの収集と分析は、スリランカと東ティモールでマラリアを事実上根絶する鍵となりました。WHOは2016年にスリランカをマラリアフリーと認定し、同国は現在、マラリアの再発防止に取り組んでいます。また、2006年に22万人以上の感染者がいた東ティモールでは、2017年に最後の固有種(非伝搬型)の感染が記録されたことが2020年の調査で判明しています。

「スリランカがマラリア件数をゼロにできたとき、あの規模の熱帯地域の国としては本当に初めてのことでした」とジーマンさんは話します。「この方法は東ティモールに引き継がれました。東ティモールのロータリアンは、WHOが主導するキャンペーンに積極的に参加し、スリランカ・メソッド(基本はロータリーモデル)を用いました。豊富なデータを利用して、マラリア症例を特定するための訓練を行いました。さらに、その方法をほかの国にも適用しています」